

技術士 1 次試験に合格して



大前 陸斗

(おおまえ りくと)

勤務先

和光技研株式会社

技術部

〒063-8507 札幌市西区琴似 3 条 7 丁目 5 番 22 号

TEL 011-611-8740 FAX 011-611-0227

E-mail r.oomae@wako-giken.co.jp

■ 専門：建設部門

自己紹介

和光技研株式会社の大前と申します。昨年 4 月に入社し、主に河川構造物の設計等に携わっております。未熟者ではありますが、日々の業務を通じて経験や知識を身に付けていくことで少しずつ成長を実感しています。

受験のきっかけ

入社して間もなく、先輩社員の方々から「技術士の一次試験を受験したほうがいいよ」とお声をかけていただきました。技術士、という資格は就職活動の際に少しでも聞いたことがあったのですが、詳しく聞いてみると、この業界における最高峰の資格であり、多くの技術者が取得を目標にしているということを知っていただきました。

大学では建設に関わる資格を全く取得していなかったため、受験に際して条件のない一次試験は自身の知識獲得にもつながる良い機会だと思い、建設部門での受験を決意しました。

受験体験

一次試験は、基礎科目・適性科目・専門科目全ての科目を 5 割以上得点することで合格できるという内容でした。

過去問のテキストを購入し、いざ勉強を始めると適性科目は傾向を掴めばすらすらと解ける問題も多かったのですが、基礎科目と専門科目は、大学卒業程度の数学や物理等の基礎知識全般が出题されており、自身の専攻分野と全く異なるため、苦労したのを覚えています。そのため、過去 10 年分をひたすら繰り返し解き、理解を深めました。

また、社会人になってからの勉強は学生時代と比べて、時間を確保することそのものが難しく、可能

な限り平日の帰宅後に勉強をしようとしたのですが、机に向かうと気が滅入ってしまい、どんなに長くても 2 時間ほどで終了してしまいました。そのため、平日は隙間時間を利用し、土日や祝日にまとまった時間を作ることを心掛けていました。

それでも、一からのことばかりで何度解答を読み込んで理解しきれない問題が多く、このまま全ての問題を正解できるようになることを目指しても、時間が足りず試験に合格できないと感じたため、普段業務で触れる機会の多い河川等の解きやすい分野に絞って暗記することに専念しました。

試験当日は、緊張していたこともあり想像していたよりも手ごたえがなかったのですが、なんとか合格することができました。

ちなみに、一番自信のあった適性科目の点数が一番低く、合格点ギリギリだったのはここだけの話です。これから受験される方々は、満遍なく全科目に取り組んでほしいです。

今後に向けて

実際に受験を経験した現在では、前よりも高い意欲を持って仕事に取り組んでいる気がします。

二次試験の受験資格を得るにはまだ 4 年ほど必要なため、その間に少しでも受験を意識しながら経験を積むことで、早期取得を目指したいと思います。

最後に

合格祝賀会では、たくさんの技術士の方と交流することができ、大変良い刺激を受けることができました。

最後に、今回の合格に際しまして、この場を借りて様々な方のご協力に心からの感謝を申し上げます。